

事業報告書（指定管理者による自己評価）

1 指定管理施設及び指定管理者の概要

指定管理施設	名 称	第一警備スポーツセンター戸畑 （北九州市立浅生スポーツセンター）
	所 在 地	北九州市戸畑区浅生2丁目1-1
指定管理者 （自己評価者）	名 称	戸畑スポーツ文化グランドデザイン
	所 在 地	北九州市小倉北区浅野1丁目1番1号
指定期間		令和7年4月1日～令和12年3月31日
事業報告（自己評価）の 対象期間		令和7年4月1日～令和8年3月31日

2 企画提案事業・自主事業の実施状況（対象：自己評価の対象期間）

企画提案事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
温水プールでの夏季の子ども優先 利用事業	☒	○	
浅生地区スポーツ大会	☐	○	
自主事業	応募時提案 （□にレ点）	実施の有無 （○・×）	備 考 （補足説明等）
ジュニア世代を対象とした スポーツ教室事業	☒	○	
子育て・働き世代を対象とした スポーツ教室事業	☒	○	
シニア世代を対象としたスポーツ 教室事業	☒	○	
自動販売機設置事業	☒	○	
温水プールの営業時間延長	☒	×	令和8年度10月実施予定
テニスコートの夜間利用事業	☒	×	令和8年度9月実施予定 (1面)
プール未稼働による追加の スポーツ教室事業	☐	○	

大規模大会開催時のキッチンカー 出店による賑わい創出事業	☒	☐	
---------------------------------	-------------------------------------	-----------------------	--

※応募・申請時の提案書や毎年度の事業計画書等に記載の事業を記入してください。

3 自己評価結果

評価項目及び評価のポイント		自己 評価
1 施設の設置目的の達成（有効性の向上）に関する取組み		
(1) 施設の設置目的の達成		評価レベル (0～5)
① 計画に則って施設の管理運営（指定管理業務）が適切に行われたか。また、施設を最大限活用して、施設の設置目的に沿った成果を得られているか（目標を達成できたか）。		3
② 利用促進を目的としている施設の場合、施設の利用者の増加や利便性を高めるための取組みがなされ、その効果があったか。		
③ 複数の施設を一括して管理する場合、施設間の有機的な連携が図られ、その効果が得られているか。		
④ 施設の設置目的に応じた効果的な営業・広報活動がなされ、その効果があったか。		
[評価の理由、要因・原因分析]		
①計画に則った適切な管理運営と成果の達成度		
「北九州版スポーツ SDGs プロジェクト」を基本方針に掲げ、多世代がスポーツに親しめる環境整備を推進しました。しかし、令和7年度の利用者実績は204,200人となり、市の最低要求水準（213,000人）および当JVの目標値（234,678人）を下回る結果となりました。		
【原因分析】		
最大の要因は、9月から3月にかけて実施された室内プールの改修工事に伴う一部施設の稼働休止です。6か月間のプール休館により、プールの利用者数は28,464人（当初目標49,333人）に留まり、さらに同工事による1月～2月のトレーニング室の休止に伴い、体育館とトレーニング室の利用者が99,365人（体育館とトレーニング室含む目標値110,135人）となったことが大きく影響しました。		
②利用促進および利便性を高めるための取組み		
利用者の利便性向上を目的としたDX施策として、スクール管理システム「hacomono」を導入し、自主事業スポーツ教室の24時間WEBでの欠席・振替手続きを可能にしました。また、プール工事期間中の利用機会喪失を補うため、武道場等での追加スポーツ教室を実施し、隙間時間や遊休施設を活用した新たな運動機会を提供しました。		
また、トレーニング室の休止期間中にレイアウト変更を行い、ストレッチエリアを拡充しました。テレビモニターを導入し、動画を活用したストレッチが可能となるなど、		

初心者にも利用しやすい環境を整備しました。併せて、新たな運動器具を設置し、目的に応じたトレーニングができる施設づくりに取り組みました。

さらに、ご利用者からの要望にお応えし、時間外（9:00 開館前）の受け入れ体制を整えました。

③効果的な営業・広報活動

「北九州市政だより」や教育委員会を通じた学校・幼稚園へのチラシ配布など、ターゲットに合わせた基幹広報を展開しました。

また、デザイン性を高めた施設案内パンフレットの刷新や令和7年6月から開始したSNS（Instagram）によるプッシュ型の情報発信（100回以上）を行い、潜在的な利用者層への認知度向上を図りました。

（単位：人）

【利用者数】	R6年度 (更新前)	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
要求水準	287,000	213,000	213,000	213,000	213,000	213,000
目標値	305,000	234,678	247,307	252,253	257,299	262,444
実績	257,746	204,200	—	—	—	—

（単位：人）

独自目標 インスタフォロワー数	R7年度 (1年目)	R8年度 (2年目)	R9年度 (3年目)	R10年度 (4年目)	R11年度 (5年目)
目標値	300	600	700	800	1000
実績	586	—	—	—	—
達成状況	194%	%	%	%	%

※ ・・・評価対象年度

●外部ネットワークによる利用促進策（インスタグラムフォロワー数獲得）

【評価】

利用者増、認知度向上施策として、外部への発信を強化する取組を実施。利用状況・プログラムやイベント発信を随時実施し、認知度向上とともに利用しやすい、利用したくなる浅生スポーツセンターを創出すべく、令和7年6月からSNSによる情報発信を行いました。

目標人数を設定し、朝礼・昼礼時の合言葉として日々人数の確認と共有、インスタフォロワーキャンペーンと称したイベントも開催し、フォロワー数の拡大を図りました。

その結果、現在586名の登録者数となっています。インスタで情報を確認しての利用やイベント参加者が増えており、またインスタからの情報発信について、「利用確認が来館しなくても確認できるからありがとう」の声もいただいています。

(2) 利用者の満足度	評価レベル (0～5)
① 利用者アンケート等の結果、施設利用者の満足が得られていると言えるか。 ② 利用者の意見を把握し、それらを反映させる取組みがなされたか。 ③ 利用者からの苦情に対する対応が十分に行われたか。 ④ 利用者への情報提供が十分になされたか。 ⑤ その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。	5
【評価の理由、要因・原因分析】 ①利用者アンケート等の結果による満足度の達成状況 令和7年度のアンケート結果において、職員対応満足度は98.1%を記録し、北九州市の定める要求水準（80.0%）を18.1ポイント、当JVが掲げた高い目標値（95.0%）をも3.1ポイント上回りました。 また、施設利用満足度も95.0%と極めて高い水準にあり、要求水準を15.0ポイント超過しています。 【要因分析】ルネサンス独自の研修制度「スマイルスタッフ制度」に基づき、全スタッフが接客の心構えを習得し、習熟度を名札ストラップで可視化したことが、サービス品質の標準化と向上に直結しました。また、受付にて初めての利用者や高齢者へ積極的な声掛けを行ったことで、不安解消とスムーズな案内を実現しました。 ②利用者の意見を把握し、反映させる取組み 館内に設置した「お客様の声ボックス」を通じて、利用者の生の声を「財産」として集約・分析するPDCAサイクルを確立しました。 【具体的反映例】 利用者マナーに関する指摘に対し、更衣室ロッカーへの啓発POP掲示や、デザイン性を高めた館内掲示物への刷新を行い、利用者同士が気持ちよく利用できる環境を整備しました。寄せられた意見とそれに対する回答・改善策は館内に掲示し、透明性の高い運営を徹底しました。 ③利用者からの苦情に対する迅速・適切な対応 苦情・要望に対して、現場スタッフから統括管理責任者へ即時報告される「要望・苦情対応フロー」を運用し、迅速な初動対応（クイックレスポンス）を実践しました。 【原因分析】発生した事案については、本部スタッフとも連携し、他施設での事例を交えた多面的な分析と再発防止策の策定を行いました。この体制により、重大なトラブルへの発展を未然に防ぎ、利用者の信頼維持に努めました。 ④利用者への多角的な情報提供の実施 デジタル（ICT）とアナログ（紙媒体）の両軸による、ターゲットに応じた丁寧な情報発信を展開しました。	

【取組内容】 公式ホームページの刷新、SNS（Instagram）を活用したリアルタイムな教室・イベント情報を発信しました。今年度からのアカウント発信から 586 名のフォロワーを獲得しました。

一方で、デジタル媒体に不慣れな高齢者や子ども向けに、デザイン性を重視した施設案内パンフレットを新たに作成し、近隣の類似施設や教育機関へ配布することで、情報の平等性を確保しました。

⑤その他サービスの質を維持・向上するための具体的な取組みと効果

【ICT 活用による利便性とコンテンツの拡充】

スクール管理システム「hacomono」の導入により、24 時間 WEB での欠席・振替手続きを可能にし、利用者の事務的な負担を大幅に軽減しました。

【科学的根拠に基づく継続支援（運動の可視化）】

高精度な体成分測定器（InBody）を新規導入し、単なる体重測定ではなく筋肉量や栄養状態を数値化してフィードバックする体制を整えました。これにより、利用者が自身の身体の変化を客観的に把握できる「定点観測」の機会が生まれ、運動継続へのモチベーション維持と満足度向上に寄与しました。

【安全管理体制の抜本的見直し】

プールの安全面において、従来の「監視台に座る監視」から「緊急時に即座に入水可能な巡回による監視」へと体制を刷新しました。また、安全管理研修を実施し、スタッフが共通の認識で安全安心を第一に監視できる体制を構築しました。

【認知症フレンドリーな環境整備と「オレンジリング」の導入】

超高齢社会における公共施設の役割として、認知症への正しい理解と適切なサポート体制を構築しました。全スタッフを対象に「認知症サポーター養成講座」の受講を推進し、その証である「オレンジリング」を着用した接遇を実践しています。これにより、高齢者やそのご家族が安心して来館できる「心のバリアフリー」を実現しました

施設利用満足度	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
要求水準	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
目標値	—	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%	97.0%
実績	96.8%	95.0%	—	—	—	—
有効回答数	344人	218人				

※ ・・・評価対象年度

職員対応満足度	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
要求水準	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%	80.0%
目標値	—	95.0%	95.0%	96.0%	96.0%	97.0%
実績	99.4%	98.1%	—	—	—	—
有効回答数	343人	213人				

※ ・・・評価対象年度

・職員対応満足度の評価分析（令和 7 年度）

令和 7 年度の職員対応満足度は、貴市が定める要求水準および当施設が掲げた高い目標値をいずれも上回る極めて良好な結果となりました。

【実績評価】

実績値 98.1%は要求水準を 18.1 ポイント大幅に超過しており、さらに自ら設定した高い目標値（95.0%）をも 3.1 ポイント上回りました。

2. 高い満足度を実現した具体的取組（定性評価）

単なる数値の達成に留まらず、以下の「ルネサンス・ノウハウ」を活かした組織的な取組が利用者からの高い信頼に繋がっています。

【独自研修制度「スマイルスタッフ制度」の徹底】 役職や雇用形態に関わらず、全スタッフを対象に接客接遇研修を実施しています。習得レベルに応じて「ベーシック」「アドバンス」「インストラクター」の 3 段階で認定し、常に「おもてなしの心（利他の精神）」を持ったサービスを提供できる体制を整えています。

【迅速な「利用者の声」へのフィードバック】 利用者から頂いた意見や要望を「財産」と捉え、現場スタッフと本部が連携して原因分析と改善策の策定を迅速に行う PDCA サイクルを確立しています。改善結果を館内に掲示・報告することで、利用者との信頼関係を強化しました。

3. 総括

令和 7 年度は、前年度の極めて高い評価（99.4%）を維持・継続し、「浅生スポーツセンターに行けば気持ちよく迎え入れてくれる」という施設ブランドを確立することができました。今後もこの高い水準を維持しつつ、さらにきめ細やかなホスピタリティを追求し、市民の皆様が「また来たい」と思える施設運営を継続してまいります。

2 効率性の向上等に関する取組み

(1) 経費の低減等

評価レベル
(0～5)

- | | |
|--|---|
| ① 施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組みがなされ、その効果があったか。 | 4 |
| ② 清掃、警備、設備の保守点検などの業務について指定管理者から再委託が行われた場合、それらが適切な水準で行われ、経費が最小限となるよう工夫がなされたか。 | |
| ③ 経費の効果的・効率的な執行がなされたか。 | |

〔評価の理由、要因・原因分析〕

① 経費低減に向けた十分な取組みと効果

本事業では、北九州市が提示した指定管理料上限額から年間 2,040 千円（5 年間で計 10,200 千円）を削減した金額を提案し、その計画に基づいた効率的な管理運営を遂行しました。その結果、提案額からさらに 7,214 千円の削減を達成しました。

【人的効率化の推進】

受付・プール監視の各セクションにおいて、一人のスタッフが複数の業務を担えるようマルチタスクのための教育・研修を実施し、最小限の人員配置で質の高いサービスを維持しました。

②再委託業務の適正な水準維持と経費節減の工夫

清掃や保守点検等の再委託業務において、貴市が推奨する「性能発注」の考え方を全面的に採用し、過剰な仕様を排した効率的な発注を実践しました。

【地元企業の優先活用】

維持管理業務においては、北九州市内の企業を中心とした再委託を行い、地域経済への貢献と迅速な対応によるコスト抑制を両立しました。

【日常清掃の内製化支援】

専門業者による定期清掃に加え、運営スタッフが日々の清掃をきめ細かく実施することで、清掃品質を維持しつつ外注費の適正化を図りました。

③経費の効果的・効率的な執行

【エネルギーコストの管理】

光熱水費基準（28,585 千円）に対し、日本施設協会と連携して空調機器や照明の適切な運転管理を徹底し、エネルギー消費の最適化を追求しました。照明や空調のタイマーセットによる未使用時の無駄をなくしました。

（単位：千円）

【支 出】		R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
光熱水費	計画	33,276	36,113	36,113	36,113	36,113	36,113
	実績	33,503	21,646	—	—	—	—
修繕費	計画	6,963	5,841	5,841	5,841	5,841	5,841
	実績	6,690	7,675	—	—	—	—
その他管理運営費	計画	66,184	73,331	73,331	73,331	73,331	73,331
	実績	67,234	78,750	—	—	—	—
計	計画	106,423	115,285	115,285	115,285	115,285	115,285
	実績	107,427	108,071	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年

※人件費はその他管理運営費に含む

(2) 収入の増加

評価レベル
(0～5)

- ① 収入を増加するための具体的な取組みがなされ、その効果があったか。
- ② 使用料（利用料金）収入以外に、自主事業による収入や、企業などの外部からの収入（例：協賛金など）を獲得できているか。
- ③ 自主事業による収益を活用した施設の魅力向上などの投資や、サービス

4

向上などの指定管理業務や市への収益還元の取組みがなされたか。							
【評価の理由、要因・原因分析】							
①収入を増加するための具体的な取組みと効果							
令和7年度の使用料実績は37,635,646円となり、当初目標値（43,579,000円）に対して達成率86.4%となりました。							
【要因分析】							
目標未達の主因は、下半期（9月～3月）に実施された室内プールの改修工事に伴う利用休止です。（1月～2月：トレーニング室休止期間）これによりプール及びトレーニング室使用料収入が大幅に減少しました。							
【対策と効果】							
工事による減収を補うため、駐車場の稼働率向上（実績12,739,100円、全体収入の約34%を確保）や、テニスコートの夜間利用促進に向けての準備、体育館での新規教室展開を強化しました。また、スクール管理システム「hacomono」を活用したWEB決済の導入により、事務手続きの効率化と機会損失の防止を図りました。							
②使用料収入以外（自主事業・外部収入）の獲得状況							
【商品販売の実施】							
ご利用者の利便性やご要望にお応えするべく新たにスイミング商品やトレーニング用品、プロテインの販売などを新たに実施いたしました。							
③自主事業収益の活用および市への収益還元							
【市への財政貢献】							
効率的な運営により、指定管理料上限額から年間2,040千円（5年間で計10,200千円）の歳出削減を達成した状態で運営を継続しています。							
【魅力向上への投資】							
北九州市が掲げる健康課題解決に向け、まずは近隣住民にむけた体組成測定を実施し、健康への意識を高めるきっかけづくりをしました。							
また、トレーニング室の利便性向上や初心者への環境づくりとしてテレビモニターでの映像プログラム配信やストレッチマット、ケトルベル、ベンチを設置し、ご利用スペースの拡大（レイアウト変更）を実施いたしました。							
(単位：千円)							
【収 入】		6年度 (更新前)	7年度 (1年目)	8年度 (2年目)	9年度 (3年目)	10年度 (4年目)	11年度 (5年目)
指定管理 料収入	計画	96,720	115,285	115,285	115,285	115,285	115,285
	実績	100,008	107,757	—	—	—	—
自主事業 収益還元	計画	6,415	3,304	2,736	3,509	5,322	6,817
	実績	7,465	1,824	—	—	—	—
計	計画	103,135	118,589	118,021	118,794	120,607	122,102
	実績	107,473	109,581	—	—	—	—

※ ・・・評価対象年度

(単位：千円)

【使用料 収入】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
目標値	—	43,579	44,611	45,484	46,374	47,282
実績	42,292	37,636	—	—	—	—

・収益還元率は年平均 43%を計画しております。

2025 年度は 1,824,240 円の収益還元により、施設活性化のために下記項目に取組み、利用者増を図りました。

- 1、トレーニング室内へ映像プログラム導入（モニター設置、映像プログラム導入）
- 2、ストレッチスペースの設置
- 3、トレーニング器具導入（ストレッチポール、ケトルベル、ヨガマット）

<指定管理業務への収益還元の状況>

(単位：千円)

【実績】	R6 年度 (更新前)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
利益額	11,557	1,824	—	—	—	—
還元額	7,465	1,824	—	—	—	—
還元率	65%	100%	—	—	—	—

(単位：人)

独自目標 健康測定会 (新規利用者)	R7 年度 (1 年目)	R8 年度 (2 年目)	R9 年度 (3 年目)	R10 年度 (4 年目)	R11 年度 (5 年目)
目標値	100	150	200	250	300
実績	108	—	—	—	—
達成状況	108%				

※ ・・・評価対象年度

●新規利用者増加施策

地域住民を対象とした健康測定会を実施いたしました。

健康・運動へのきっかけづくりを目的で気軽に短時間で、からだの中身を測定する体成分測定を行い、筋肉量・脂肪量・バランス・水分量・栄養を測定し、運動するきっかけづくりを推進しました。また測定後には健康・運動アドバイスを実施し、健康への気づき～運動の大切さ～継続の重要性をお伝えし継続に繋げていく取組を実施しました。健康測定会から新規でご利用していただく施策として、新規の方の利用人数を独自目標に掲げました。

※結果：令和6年11月～令和7年3月末までの測定者累計324名うち新規利用者108名	
3 公の施設に相応しい適正な管理運営に関する取組み	
(1) 施設の管理運営（指定管理業務）の実施状況	評価レベル (0～5)
① 施設の管理運営（指定管理業務）にあたる人員の配置が合理的であったか。	4
② 職員の資質・能力向上を図る取組みがなされたか（管理コストの水準、研修内容など）。	
③ 地域や関係団体等との連携や協働が図られたか。	
【評価の理由、要因・原因分析】	
①施設の管理運営にあたる人員配置の合理性	
【専門性の確保】	
代表企業（ルネサンス）から、類似施設の運営経験10年以上のベテラン正社員を統括管理責任者として配置し、安定的な指揮命令系統を確立しました。	
【多能工化の推進】	
受付・プール監視の各スタッフに対し、一人が複数の役割を担える「多能工化」の教育を実施しました。これにより、最小限の人員で柔軟かつ安全な運営を可能にし、人件費の適正化を図りました。	
【バックアップ体制】	
ルネサンス小倉からの応援体制や研修実施によるバックアップ体制を整えました。	
②職員の資質・能力向上を図る取組み	
【スマイルスタッフ制度】	
全スタッフを対象に接客接客研修を実施し、習熟度を3段階（ベーシック、アドバンス、インストラクター）で認定・可視化することで、常に高いホスピタリティを維持しました。	
③地域や関係団体等との連携や協働	
【施設間連携】	
共同企業体の構成員である日本施設協会が指定管理を行う「北九州市立戸畑図書館」「ミクニワールドスタジアム北九州」との連携を強化しました。共同企業体の月次ミーティングをすることで状況共有をしながら、ホームページの相互リンクや、図書館内へのイベントポスターやチラシの設置などを通じ、スポーツと文化を融合させた多角的なアプローチを実践しました。	
【地域団体との協働】 NPO 法人戸畑コミスポ（施設内事務所）や弓道連盟と連携し、既存の地域スポーツ団体や利用者とコミュニケーションを取りながら、施設の魅力創出にむけた新たな取り組みの実施により新規利用者の獲得を推進しました。	

(2) 平等利用、安全対策、危機管理体制など	評価レベル (0～5)
① 施設の利用者の個人情報保護するための対策が適切に実施されているか。 ② 利用者を限定しない施設の場合、利用者が平等に利用できるよう配慮されていたか。 ③ 利用者が限定される施設の場合、利用者の選定が公平で適切に行われていたか。 ④ 施設の管理運営（指定管理業務）に係る収支の内容に不適切な点はないか。 ⑤ 日常の事故防止などの安全対策が適切に実施されていたか。 ⑥ 防犯、防災対策などの危機管理体制が適切であったか。 ⑦ 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか。	4
【評価の理由、要因・原因分析】 ①個人情報保護対策の適切な実施 「個人情報保護法」および「北九州市個人情報保護条例」を厳守し、万全の管理体制を敷きました。 【具体的措置】 構成員がプライバシーマーク（P マーク）認定取得企業であることを活かし、認証基準に基づいた個人情報保護方針を策定・公開しました。物理的対策として個人情報を含む書類はすべて鍵付書庫で管理し、人的対策として全従業員を対象に年1回の個人情報保護研修を義務化しました 【実績】 令和7年度において、個人情報の漏洩や紛失などのインシデントは0件でした。 ②利用者の平等利用への配慮（限定しない施設） 【合理的配慮の実践】 スタッフへの「認知症サポーター養成講座」受講を推進し、オレンジリング着用によるホスピタリティの可視化を図りました。 【UD（ユニバーサルデザイン）】 ホームページや施設案内パンフレットにおいて、見やすいデザイン（アクセシビリティ）を採用し、情報の平等性を確保しました。 ③利用者選定の公平性・適切性（限定される施設） 専用利用（団体貸切）等の選定において、条例および規則に基づき、中立かつ透明性の高い運用を徹底しました。 【具体的運用】 特定の団体への優遇を排除し、公共性の高い市主催行事等の優先枠を適切に管理した上で、一般団体には公平な予約機会を提供しました。WEB 予約システムと窓口対応を併用し、手続きの公平性を担保しています。	

④収支内容の適切性

公金を扱う指定管理者としての自覚を持ち、適正な会計処理を実践しました。

【管理体制】

使用料収入については、専用の管理口座を開設して団体自体の会計と明確に区分しました。代表企業の本社経理部門による定期的な内部監査（実査）を実施し、帳票類（連番管理）と現金の不整合がないことを確認しています。

⑤日常の事故防止等の安全対策

プールの安全管理体制を抜本的に見直し、「安心安全な監視」へと刷新しました。

【具体的対策】

1 プール

監視員に対し、監視台（イス）の使用は廃止し、緊急時に即座に入水可能な状況を基本としました。

2 トレーニング室

安全にご利用いただくために、カウンターを必要最低限の設置とし、室内スペースを広くし、ストレッチスペース、トレーニング動線を確保しました。

3 庭球場

劣化していた、テニスネット（6面分）テニスワイヤー（6面分）修繕交換し、また、テニスコート整備するためのブラシ12本を修繕対応し安全性を高めました。

4 弓道場

競技者が的を確認する専用通路の安全性を確保するため（素足で利用）ジョイントマットを交換対応しました。

5 施設

トレーニング室、プール男女各更衣室入口周辺に、安全性確保のためL字コーナーガードクッションを設置し接触防止に努めました。

6 施設

転倒防止のため、新たに柔剣道、外階段入口へマット設置しました。

既存のものを含め、雨の日の安全策として対応しました。（5枚→7枚）

⑥防犯・防災等の危機管理体制

あらゆる緊急事態を想定した「危機管理マニュアル」を策定・運用し、全スタッフに研修を実施しました。

⑦ 事故発生時・非常災害時の適切な対応

施設内でのケガ人への初期対応や救急車の要請、状況の把握、記録、報告を基本のマニュアルに沿って実施しました。

【総合評価】

【全体的な評価・今後の対応等】

- ・指定管理者として初年度の運営となり、前管理者の創り上げてきた良き部分を継承しながら、「地域を健康に」「地域を元気に」をスローガンに掲げ、新規利用者が増え運動の習慣化が図れる取組みを実施し、利用者増のため健康イベント、健康プログラムの実施や地域団体と連携した健康づくり、街づくりへも参画して参りました。
- ・内部だけの取組だけでなく、外部への取組も強化し進めて参りました。
ホームページ、インスタ発信や地域住民向け健康測定、キッチンカーの出店など地域の皆さまに親しまれるスポーツセンターを目指し取組んで参りました。
- ・施設環境の整備として、安心安全にそして快適にご利用いただける施設づくりをして参りました。ウイルス感染対策として、施設内に手指消毒液の設置、使用後のトレーニングマシン用消毒タオルの設置など、また、熱中症対策としては、ミスト扇風機の設置や経口補水液・瞬間冷却剤などを常備し対策強化して参りました。
- ・今後、利用者増、使用料収入増を図っていくため、プール利用時間の延長、テニスコートの夜間利用を実現させて参ります。またフィットネス業界の特色を活かし、トレーニング、プールプログラムの本数を増やして参ります。さらに家族で健康に繋がるイベントや子ども、働き世代、高齢者それぞれの世代にあわせた健康プログラムを提供し、地域になくてはならない施設として、更なる発展に貢献して参ります。

【評価レベル】

評価レベル		評価レベルの考え方
5	良 い	要求水準・目標・計画を大幅に上回り、特に優れた管理運営をおこなった
4	↑	要求水準・目標・計画を上回り、優れた管理運営をおこなった
3	普 通	要求水準・目標・計画を満たしており、適正に管理運営をおこなった
2	↓	要求水準・目標・計画を下回り、課題の残る管理運営となった
1		要求水準・目標・計画を大幅に下回り、大いに課題の残る管理運営となった
0	適切でない	不適切な管理運営となった

※この様式は外部にも公表する資料となります。